

恵明新聞

No.110

令和2年12月1日発行



加藤秀郷元児童部園長が令和2年7月19日享年76歳で逝去されました。

加藤元園長は大学二年生の時、近くの交番に子ども達とかかわれる場所はないかと尋ね、紹介されて静岡恵明学園の門を叩きました。三重の実家では大家族で暮らしていたので下宿での一人暮らしが寂しかったのだそうです。杉村伸平・茂登子夫妻が二人で沢山の子ども達をお風呂に入れていた姿に感動し、恵明学園に下宿をして大学へ通いました。当時、児童養護施設から公立高校へ進学する者はいませんでした。加藤元園長は進学を希望する児童の学習指導をし、その子は見事に静岡県下で初めて全日制公立高等学校へ入学しました。そして加藤元園長は卒業と同時に静岡恵明学園児童部へ児童指導員として奉職しました。そのころ四年生大学を卒業した人が児童養護施設へ就職するのは珍しく、杉村夫妻は三重の加藤元園長のご両親に就職の了承を得に伺うほどでした。三島市谷田での大舎制施設を経て、杉村伸平先生の「0から18歳まで一貫した価値観のもとで子どもを養育する」という理想の下、三島市笹原新田での小舎制の生活を実現しました。杉村夫妻と共に加藤元園長も家族で住み込み、子ども達と寝食を共にしてきました。また、地域の皆さんと協力をして地域児童の健全育成にも尽力されました。平成7年9月30日杉村伸平先生が逝去した後、杉村茂登子先生からの推薦により静岡恵明学園児童部第二代園長に就任し、平成31年3月に退職するまでの長きに亘り園長を務められました。在職中は、静岡県児童養護施設協議会会長、全国児童養護施設協議会副会長と様々な要職も務められました。児童福祉に尽力された加藤元園長のご冥福を心よりお祈りいたします。長年、静岡恵明学園を支えてくださった方が亡くなり、子ども達、卒園生、職員、役員とも寂しい限りです。ですが、加藤元園長の優しいまなざしに見守られながら子どもとともに未来へ向かって歩んでいきたいと思っています。

皆様より今年も色々ご支援ご協力を賜りました。本当に有難うございます。来る年が皆様にとって良い年でありますように、世の中から虐待がなくなりますようにと願います。

社会福祉法人静岡恵明学園理事長 杉村 伸一

令和二年七月十九日、静岡恵明学園児童部で長年活躍されてきた元園長の加藤秀郷先生が帰らぬ人となりました。体調を崩され入院されたと伺ってからあまりに急で、職員も子どもたちも未だ実感が湧きません。

加藤先生は静岡恵明学園の創設者である杉村伸平先生・茂登子先生の元、住込みで子どもたちとの生活を始められ、伸平先生の後を継ぎ平成七年に児童部の園長に就任してからも住込みの生活を崩さず、平成三十一年三月に退職されるまで五十年以上にわたり「子どもとともに」を実践してこられました。

また静岡県児童養護施設協議会会長・全国児童養護施設協議会副会長を歴任され、令和二年春の叙勲に於いて瑞宝単光章の榮譽を受章された矢先の訃報でした。

加藤先生、今まで本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

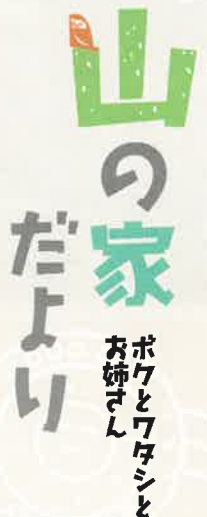


加藤秀郷先生

恵明学園児童部

心を扱う職業を選択するにあたっての原体験の一つとでもいうべきことを、中学生の頃に体験しました。「あなたのこととは私には分からない」という実感に伴ったその体験はとても衝撃的なものでしたが「分からないから、少しでもあなたの思いに心を寄せられるように努力する」という、相手と向き合う際の私なりの心構えにつながっています。でも、実際はそれがとても難しい。

この八月より、児童部の職員宿舎の二室をお借りして、小さな相談室を開設させていただきました。相談室といっても名ばかりで、子どもたちが自由に出入りできる遊び場といった方がいいかもしれません。工作やパズルに取り組みむ、お茶を片手にみんなとおしゃべりを楽しむ。そこでは、普段はなかなか目にできない子どもたちの姿や関係性が見られたり、何気ないやりとりの中から漏れ聞こえてくる子どもたちの本音にドキッとしたり、心がグッと揺れたり、思わずニヤツとしたりと、日々小



相談室のようす

さな発見や楽しみを見出すことができます。

最近のブームは、夕食後のお茶会。ほっと一息ついて「また明日ね」「おやすみ」と笑顔を交わすことができる、この時が大好きです。ある冷えた夜のことが、最後まで残っていた男の子をコテージまで送った際「あつたかいあの部屋でココア飲むのとか、きつと最高だよ」と彼が言いました。考えただけで幸せ、寒いのも悪くないなあ、と二人で笑いました。難しく考えなくとも、子どもたちの心のひだに触れられる瞬間はたくさんあるのかも。「明日もいい日でありますように！」

関 綾乃(心理士)

はなみずきの家だより

はなみずきの家は、夏休みの終わり新学期前に北田町に移りました。新築の家に児童六人、大人三人で生活を始めました。

子どもたちはコロナ禍、転校を経験しました。知らない街、友だちのいない学校と緊張した日々を送っていました。九月になると、子どもたちそれぞれに新しい友だちが出来始めました。帰宅し宿題を



はなみずきの家外観

してから、源平川へ水遊びに行く様になり、そこでクラスメイト達と遊ぶことが、日課のようになりました。

ご近所の方々と挨拶でき、声も掛けていただいています。

新しいことはかなりの「家」で、大人も子どもた

ちもとまどいながら元気にしています。

中山道則(児童指導員)

自立支援の立場から

社会的養護自立支援を続けています。対象者は施設や里親の元を離れて二人で暮らしている若者です。それに加えて、まだ社会的養護の場所でお世話になっている高校生、大学生の相談も受けています。

就職している少年少女達の中で、少し自立つのは、転居したり、転勤したりという変化を、ある日突然やってしまう例です。彼らにすれば、考えた末の出来事かもしれない。また、自立しようと努力している姿なのかとも考えます。

今年特に目立つのは、コロナ禍のためか、高校三年生、大学四年生等の就職内定が、とてももたついていてのことです。

専門的就職支援会社の協力もおおき、就活を支援しているけれど、あまり目立つた成果が上がついていません。

彼等に言わせると、今年三月までは就職口は余るほどあり、子どもをどこに進めるかに苦労していたそうです。

児童家庭支援センターだより



このような時代になって痛感する事は、一人で生きる力を、いかに身に付けさせるかです。

たとえば、金銭面では毎月の収支をいかに釣り合わせるか、使いたい放題使っていたらすぐにパンクしてしまいます。

養護されながら生活していると、全てが与えられる生活です。社会人や大学生になったとたん自立する必要性に迫られます。

社会的養護自立支援では、早ければ中学生の頃から、自分一人で生活できる力をもつと養つていかなければと痛感します。

小林 威(自立支援コーディネーター)

相談員より

新型コロナウイルスの出現により、子どもも大人も感染の恐れから緊張状態が続いています。緊急事態宣言解除後は「新しい生活様式」と共に日常が戻りつつありますが、いまだ課題は山積みです。突然の休校や生活の変化の影響のなか、つらく悲しい児童虐待のケースも後を絶ちません。身体的虐待のケースでは、子どもへ

里親支援 四年目を迎えて

児童家庭支援センター・スマイルが里親支援事業を委託されて、早いもので四年目となりました。四年といえば、赤ちゃんが三歳四歳になり、幼稚園に入ったりと大きな成長を遂げる年月でもあります。里親支援という難しきも誇りある仕事に携わらせていただいて、とても嬉しいことは、里親さんの元で育つ子どもたちの成長を知ったときです。歩くようになった。幼稚園の運動会で頑張った。お喋りするようになった。と、見聞きするたびに「あの赤ちゃんだった子が、こんなことができるようになった」と親戚のおばちゃんさながらに「大きくなったねえ、すいねえ」とただただ可愛くて感激してしまいます。

先日、新生児委託の時から関わらせていたでいて里親さんと電話でお話していた時のことです。養子縁組が成立したことを報告して下さった



恵明クリスマス中止のお知らせ

毎年12月に三島市社会福祉会館にて開催しております第60回恵明クリスマスですが、本年は新型コロナウイルスの影響を鑑み中止とさせていただきます。

楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ありませんが何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



あびすや旅館さん



子どもたちが夏休み楽しみにしている「あびすやさん」からの招待。伊豆の国は古奈温泉に竹む招福の宿・あびすや旅館にて温泉と板前さんの腕によりをかけた昼食をいただくことが、子ども・職員ともに夏休みのいい思い出となっている。

学園とあびすや旅館とのつながりは古く、昭和四〇年代から五〇年以上、親子二代に渡りお世話になっている。以前は「泊で温泉だけでなく葎山の富士見ランドに行ったり、近くは葛城山、遠くは富士山を登ったり、

また、ぶどう狩りをしたこともある。最近はずつくりとみんなでカラオケをして楽しい時間を過ごしている。

今年はコロナ禍、招待行事は中止となってしまつたが、キャンプ帰りの子どもたちと職員を温かく受け入れていただき、温泉に浸かり疲れを癒させてもらった。

学園の子どもたちのために大切な時間を割いて対応していただき、あびすやさんの思い出はしっかりと心に刻まれている。本当にありがとうございます。

赤ちゃん センター



乳児部

感謝と感動の毎日

並木の道を、落ち葉を踏みしめながら子ども達と歩いていると、季節の移り変わりを感ずります。今年、新型コロナウイルスの影響でイベントや行事が規制・中止され、淡々と過ぎていく毎日でしたが、子ども達は元気一杯です。

どんぐりの背比べだった赤ちゃん時代、発達の違いはあるものの、這い這いからつかまり立ち、そして歩行へと。それぞれのペースで成長しています。喃語や言葉を発しながら自己アピールも忘れません。

「今日はこれができるようになったよ」「あと少しでできそうだね」こんな事も、あんな事も……。お姉さん



「おはようございます」と乳児さんの部屋へ入っていくと「まりちゃん」「まりねえちゃん」と声をかけてくれるKちゃん。

今現在いる小さな赤ちゃん達も「お腹すいたよ」「おむつぬれたよ」「かまってよ」と元気な声でアピールしてくれず。要求が満たされると満足。可愛い笑顔で返してくれず。こちらが笑顔をもたれる素敵な瞬間です。

ゆつくりだけれど

そんな子ども達の、日々の成長に携われる事に感謝と感動の気持ちでいっぱい。ありがとうございます。

「おはようございます」と乳児さんの部屋へ入っていくと「まりちゃん」「まりねえちゃん」と声をかけてくれるKちゃん。一番に食べ終わることも



日常

R君がお散歩中、ゴミ収集車のおじさんの作業を見ていて、車が行っている時に突然「ありがたう」と言いました。その時、私は「はっ」としました。確かに、

同じ月齢の子と比べると発達はゆつくりだけれど、Kちゃんのペースで少しずつ成長しています。これからもKちゃんの成長を見守り、大切にしていきたいです。

にありがたうだと。持つて行つてくれる事があたり前の事だと思い、つい忘れてしまつてた感謝の気持ちをR君は教えてくれました。R君は詩人でもありません。ある雨の日「ねえねえ、雨がツラツラ降っているよ」と言ったり「月見えないね」と言ったりS君に「月は寝ているのかな？雲とお話しているのかな？」と話して見上げ「雲泳いでるみたい」と言っていました。雨がツラツラ、とても面白い表現だなと思つたのと同時に、私自身子どもの時に、雨がバー降ると言っていた時の事を思い出しました。



伊藤 晶恵(保育士)

赤ちゃんの顔を撫でて慰めてくれていました。困ったことがあると「Aちゃん、日君やてー」と言い、お友達に助けを求められるようになり、「二人も」ちよと待つて」と言いながらも、何度も繰り返して手伝ってくれていました。それまで一人遊びが多く、お友達との関わりが少なかったR君の成長を感じました。

どのエピソードも日常のコマです。日々の中には、たくさん子どもたちの成長や優しさが詰まっています。その日々の携われた事に幸せを感じ、感謝をしています。

伊藤 晶恵(保育士)

恵 明 園 保育

楽しい毎日

寒さが身に凍みる季節となりました。冷たい風に鼻を赤らめながらも、元気に遊ぶ子ども達の姿にたくましさを感じているこの頃です。

今年度、私は一歳児の小さい子組を担当させて頂いています。今年もたくさん新しいお友だちが仲間入りしてくれました。四月：入園当初は涙々の毎日。「ママ」と頑張っている子ども達の姿に切なくなつてしまつと同時に、優しく声を掛け、受けとめてあげなければと思う瞬間であります。

半年以上が過ぎた今では「はいはい」とパパ、ママに元気に手を振りお部屋まで来てくれます。園庭でも滑り台や虫探し、追いかけてごっこやどんぐり拾いと、思い思いに笑顔で過ごしています。お姉さん達のことを「ママママ」と呼んでいる子も、今では「お姉さん」と呼び、お話もとても上

子ども達の成長

私は今、二歳児クラスを担当させて頂いています。毎日とてもにぎやかで、楽しく過ごさせてもらっています。

二歳児クラスになると子ども同士の関わりが増え「○○ちゃん、あそぼー」「ごちそうー」と、自分からお友達に声をかけて、をつないで歩いて行く姿を見ると、温かい気持ちになります。また、自分より小さいお友達を見ると、近くへ行つて「○○ちゃん」と名前を呼んだり、おもちゃを持ってきてあげたりする姿も見



られ、昨今の今頃は自分達が遊んでもらっていたのに、この一年でお兄ちゃん、お姉ちゃんになったなど実感します。最近ではみんな「むつくりくまさんやあぶくたつた」などをやっているのですが、大きな声で「むつくりくまさんやあぶくたつた」とみんなで呼んで集まってワイワイ楽しそうに遊んでいます。時には自分の思い通りにならず泣いたり、怒ったりすることもあります。お友達とケンカになることももちろんあります。そんな時は、私達保育士がうまく気持ちを伝えられるよう手



伝いながら、子ども達が楽しく園生活を送れるようになつたり、段々と言葉が少しずつ出てきたりと、その瞬間を目にしたときはとても嬉しく思います。更に心の成長というのを感じる時があります。朝、登園する時、今まではキョトンとしながら保育園へ来てく

成長とついで

早いもので今年も終わりそうです。私は今年一歳児クラスを担当させて頂いています。毎日笑顔で登園してくれる子どもたちを見ると「今日も元気に来てくれた」と私も元気をもらいます。

そんな日々の中で、子ども達の成長の瞬間をたくさん目にします。○歳児さんですと特に成長が分かりやすく、歩けるようになつたり、段々と言葉が少しずつ出てきたりと、その瞬間を目にしたときはとても嬉しく思います。更に心の成長というのを感じる時があります。朝、登園する時、今まではキョトンとしながら保育園へ来てく



子ども達との関わりの中で、それぞれの子ども達に合った関わり方を模索しています。日々の生活の中で、子ども達はどんどん成長していきます。そしてその瞬間を目にし、その場に立ち会えることはとても嬉しく光栄です。子ども達の成長とともに自分も成長していることも感じ、より一層子ども達の成長を、援助していきたいと思っています。

鈴木 愛理(保育士)

すみれくみさん
あじさい公園の木々の葉が舞い落ち、子どもたちは夢中で集めたり、見立て遊びを楽しんでいます。
私はすみれ組を担当し、半年以上が経ちました。進級時の四月には環境も大きく変わります。支度やお着替え等、とても時間がかかっていた子どもたちが、今では何でも自分で行い「先生、次は〇〇するんだよね」と少しづつ見通しを持ち生活ができるようになって、とても成長を感じます。



うわばきはけたよ
今年度も半期が過ぎ、隣のあじさい公園の木々も少しづつ色づき始めました。
四月当初、まだ上手にお話が出来なかったくし組の子どもたちも今では、先生やお友だちの



「赤・青・黄色」と色を覚え始め指差しをしなが

いただきます！
暑さもひと段落し、気持ちのいい秋空が広がる季節になりました。
10月からたんぽぽ組がラウンジデビューをし、大きい子組と一緒にランチ

生と会話をしたり「これは何？」と興味を持ち製作活動を通じて想像力や感性を身につけているように思います。
色々な経験、体験をする中で子どもたちの「できた！」という達成感を大切に、毎日成長していく子どもたちと二日を笑顔で過ごしていきたいと思

フヨウビレッジ
十月からは、たんぽぽ組さんが進級に向けてラウンジでランチやおやつを食べるようになります。食事の時間はすみれ組さんのお手本となる、お兄さん、お姉さんとなります。姿勢を正してお箸を使って頑張っているもんね。」と張り切つて

います。お外遊びでもつくし組さんのお靴をはかせてあげたり、一緒におままごとをして遊ぶ姿も多く見られるようになりました。小さいクラスのお友だちに優しくする姿は、日頃からゆり組、ふよう組さんがすみれ組さんのお手伝いをたくさんしてくれ、困っている時には優しく声を掛けてくれたり、一緒に遊んでくれるからこそ自然とできているのだと感じました。異年齢のお友だちと関わる時間を大切にしていきたいと思っています。

名前を呼んだり、見たもの、聞こえた音に反応してたくさんお話をしてくれそうです。またハイハイや、つたい歩きでの移動が多かった子も戸外遊びに行く際は、テラスに座って自分の靴を履くと嬉しそうに園庭へ向かいニコニコと楽しそうに歩いて遊んでいます。



おやつを食べています。大きい机とイスになり嬉しそうに食べている姿がとても微笑ましいです。
大きい子組は、春に比べるとおかわりをする子が増え、おかわりも完食することが多くなりました。これから肌寒い日が増え、温かい食べ物や秋冬野菜がおいしい季節になるのでたくさんランチを食べてほしいと思います。
また、秋になるとお米が収穫の時を迎えます。お米は、一粒のお米を田んぼにまくと来年は二〇〇粒にもなります。お米が出来る上がるまでには八十八回の人の手が関わると言われます。毎日手入れをして、ようやく食べられるお米になります。今年も子ども園のお米も新米に変わり、この時期でしか味わえない香り高く、やわらかいご飯を食べることが出来ます。日々の食材に関わる人に感謝をし、ランチの時に元氣一杯みんなで「いただきます」を言いたいと思います。

もり
宮さんの杜通信
2020. 10
朝晩が涼しく、日中も爽やかな秋の風を感じられるようになりました。宮さんの杜では親子で楽しく読んでいただけるような絵本をたくさんご用意しています。読み聞かせはお子さんとのコミュニケーションの場にもなりますので、ぜひご利用ください。
今月は「おやこでハロウィン」を行います。ハロウィンの飾りつけの中で、ハロウィンにちなんだ工作を予定しています。新型コロナウイルス感染症の対策をしながら、親子で安心して楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。
★ 10月の予定 ★
* ちょこっとコラム ~ 目の愛護デー ~
10月10日は目の愛護デーです。生まれたときは0.01くらいの視力も、生後6カ月頃から急速に成長し、5歳で1.0以上になります。乳幼児期は視力の成長期なので、目の健康に気を配ることが大切です。長時間テレビやゲーム画面を見続けることは避け、目によい生活を心がけましょう。
●三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010

子育て支援センター
それぞれの子育て支援センターの「子育て支援センターだより」を紹介します。地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、楽しく過ごしています。今年度も楽しく利用できるよう、イベント等用意し、スタッフ一同お待ちしております。
利用日：月曜日～金曜日 10：00～16：00
子育て相談、園庭開放も随時

ローズ通信
2020. 9
今年は梅雨明けが遅く9月になっても真夏の暑さが続いています。秋の気配を感じることもあります。夕方、耳をすめると「リーンリーン」「スーイッション」と秋の虫たちの声……。虫たちの素敵な声を聞いてみると、親子でリラックスしたひとときが過ごせそうですね。
★ ちょこっとコラム ★ ~秋の空~
空を見上げてみるとおもしろい形の雲が多く、思わす足を止めて見入ってしまいます。入道雲、ひつじ雲、うろこ雲、いわし雲、、、瞬時の秋の空や雲をお子さんと観察してみるのも楽しいですね。
●恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

フリッパー通信
令和2年10月
秋風がさわやかな季節になりました。旬の食べ物も多くなり、梨やぶどうさつまいも、栗、サンマなど秋の味覚が満載です。こども園でも、秋のあたたかいランチメニューが増えてきました。ご家庭の食卓でも旬の食べ物を取り入れてみてはいかがでしょうか。今月もフリッパーでは、ソーシャルディスタンスをとりながら、親子で楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。
*ちょこっとコラム ... おやこで楽しむ読書の秋
小さい子どもたちは、身近な生活に関する絵本が大好きです。長い文章の絵本ではなくても、短い文章の絵本を繰り返し読んであげること、自分の中に取り込んでいくのだそうです。また年齢とともに大きくなってくると、自然に物語の世界も楽しめるようになります。秋の夜長、おうちでのんびりお子さんと絵本を読んで、素敵な時間を過ごしてみませんか？
●恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878

ぽこ通信
2020.9
今年の夏は猛暑に見舞われ、まだまだその暑さは衰えを見せませんが、子どもたちもいつも元気です。園庭では秋を代表するきれいな花、コスモスが咲き始めました。夏の太陽に向かって元気に咲いていたひまわりからバトンタッチです。日中はまだまだ暑く、残暑厳しい日々が続きますが、赤とんぼがすいすい飛び交い、朝夕は涼しくなってきました。秋の訪れを感じながら、今月のぽこもみんな楽しく遊びましょう！
敬老の日
核家族化が進み、家庭でも地域でもお年寄りとかかわる機会がぐんと少なくなりました。でも、人生の大先輩とのふれあいは、子どもたちにとっても、大切な経験。まずは大好きなおじいちゃん、おばあちゃんに、日頃の感謝の気持ちをこめて、ありがとうと伝えたいですね。
●恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778

じゃじゃまる通信
2020. 10
朝夕の暑さが涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。気候も良くなり、食べ物もおいしくなり、体も動かしやすくなります。お散歩に出かけたり、周りの景色を見ながら秋を感じてみてはいかがでしょうか。今月は、秋の製作遊びや、ハロウィンの製作を予定しています。ぜひ、遊びに来てください！
ちょこっとコラム ~秋の実り~
秋は、野菜や果物が豊富な季節です。さつまいも・梨・りんご・ぶどう・栗。中でもさつまいもは、とても身近な野菜のひとつでもあります。焼き芋・スイートポテトなど色々なアレンジを楽しむこともできます。この機会に、お子様とお菓子作り挑戦してみよう！！
●恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922

恵明コスモス児童センター

コスモスフィールドで！

今年の六月、コスモスビレッジの南側グラウンドに芝が植えられました。芝はあつというまに成長して八月には一面に緑が広がりました。九月の終わりに冬芝の種をまき、十月の中旬には、冬芝も沢山出てきました。

この芝生広場は「コスモスフィールド」と名付けられ、コスモスの丘の楽しい場所の一つになりました。一時芝生の発育上、立ち入り制限がありました。児童クラブのテラスからどんと緑の面になっていくコスモスフィールドを眺め、「コスモスフィールドに行つて遊びたい」と子どもたちからの意見が多くなり、いよいよ立ち入り制限解除になりました。その日は秋晴れでとても気持ちよく、フカフカの芝にみんなで転がったり、横になったまま空を見上げたり。たくさんのおともんぼも飛んでいました。学校が終わつてからの少しの時間でしたが、久しぶりに青空のもと、子どもたちとゆつくりとした時間を過ごすことができました。



大塚 彩奈
(児童センター児童指導員)

また、最近のコスモス児童クラブでは、サッカー、バスケットボール、ドッジボール、野球等の球技が流行しています。そこで、子どもたちのリクエストもあり、簡単なバスケットボールのゴールを室内に作成しました。コスモスの室内外ともに体を十分に動かして子どもたちはボールを追つて走り回っています。私たち職員も子どもたちの体力に負けないよう、毎日頑張っています。

まだまだ新型コロナウイルス拡大防止のため、制限のある日常が続いています。その中でもしっかりと感染対策をとりながら子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思っています。



天高く馬肥ゆる秋

今年度は、世界中で、日本中で、新型コロナウイルス感染症に脅威を感じながら過ごしてきました。

気持ちも落ち込みがちですが、秋ならではの空の青さ、真白い雲、さわやかで心地よい風に、積もったストレスを忘れさせてくれる力があることに今更ながら驚いています！

PG12

私たち人間を含め生物は、この大自然の中で生かされているんだということを再認識せざるを得ません。地道な健康への努力、健康でいることの感謝を携えて過ごしていきたいものです。

「鬼滅の刃 無限列車編」大ブームの映画を見てきました！大人も子どもも連れの家族も様々な組み合わせでは満席でした。奇抜な題名、名前、内容等々、初めは疑心暗鬼でしたが、うわさ通り、感動する場面もあり、ハラハラドキドキしながら見ておりました。ふとお隣を見ると子ども連れの若いお父さんがマスクをずらして鼻をすすり涙をぬぐっていました。映画を見て親子で一緒に感動できることはとても素晴らしいことです。なんだかうれしくなりました。

さてこの映画の最初の画面の向かって左下にPG12と標記されているのが気になりました。12歳未満の(小学生以下)の鑑賞には成人保護者の指導や助言が適当。性・暴力・残酷・麻薬などの描写やホラー映画など、小学生が真似をする可能性のあるものが対象ということです。なるほど、小学生以下の未成熟の子どもたちが簡単に理解することがむずかしい表現や映像があります。このことをぜひとも親御さんたちに理解していただき、そして、どうか適切な助言を提供していただき、楽しんでほしいと思います。

恵明キッズコスモスビレッジ

「だっこ」から「自分でできるよ」へ

「先生おはよう！」「今日は外行けるかな？」と毎日元気いっぱいに登園してくるたんぽぽ組のお友だち。半年前は「だっこがい」と先生のもとから離れられなかった子も「すみれさんになりたい」という気持ちが大きくなり「自分でできるよ」「頑張る！」



と自分でできた達成感を体験できるお友だちが増えています。

最近は一人で服を脱ぎたたんでかばんにしまったり、上履きをはいて大きい子のランチルームでおやつやランチを食べたりと、すみれ組さんに向けてたくさんのご挑戦をされています。始めは「むずかしいよ」と苦戦していた子どもたちも「今日は一人でできたよ」と日に日に出来る

ることが増えています。

私は、昨年コスモスビレッジに仕事復帰し、その時初めて会った子どもたちは、まだ言葉もなかなか上手に話せず泣いていることが多かった。つくし組の赤ちゃんという印象でした。しかし今では、その子たちが自分の気持ちを伝えようとお話したり、小さいお友だちにおもちゃを貸してくれたり、とても立派なお兄さんお姉さんになりました。私自身、同じ年齢の子どもを持つ母としても、たんぽぽ組さんの成長には、とても感動し、我が子のように喜びを感じます。

これからも、子どもたちの「できた」の気持ちを大切に、残りのたんぽぽ組さんでの生活を、十三人みんなで楽しんでいきたいと思っています。

福嶋 さやか(保育士)



うとしていた子どもたち。「できた」がたくさんになった今では「ゆり組になるための練習をしよう」と日々頑張っています。すみれ組のお部屋には、頑張るマンの木があります。「お箸でランチを食べよう」「時間までに着替えを頑張ろう」と今までと違う頑張りができたときには、白い木に葉っぱを貼ることが出来ます。すみれ組のお友だちの頑張りで緑の葉っぱがたくさんとなり、木が青々しくなってきました。そして、お友だちに優しくしてあげることができたとき、みんなのために素敵なことができたときには果物を貼ることが出来ます。「トイレのスリッパきれいに揃えたよ」「お友だちのイス

かわいい笑顔！

恵明キッズコスモスビレッジに栄養士として就職し、半年が経ちました。四月の頃を思い返すと、まだ子どもたちの立場となつて野菜の切り物ができておらず、人参の乱切りをしている際に、大きすぎることを先輩の先生に教えて頂いた。

「鬼滅の刃 無限列車編」大ブームの映画を見てきました！大人も子どもも連れの家族も様々な組み合わせでは満席でした。奇抜な題名、名前、内容等々、初めは疑心暗鬼でしたが、うわさ通り、感動する場面もあり、ハラハラドキドキしながら見ておりました。ふとお隣を見ると子ども連れの若いお父さんがマスクをずらして鼻をすすり涙をぬぐっていました。映画を見て親子で一緒に感動できることはとても素晴らしいことです。なんだかうれしくなりました。

さてこの映画の最初の画面の向かって左下にPG12と標記されているのが気になりました。12歳未満の(小学生以下)の鑑賞には成人保護者の指導や助言が適当。性・暴力・残酷・麻薬などの描写やホラー映画など、小学生が真似をする可能性のあるものが対象ということです。なるほど、小学生以下の未成熟の子どもたちが簡単に理解することがむずかしい表現や映像があります。このことをぜひとも親御さんたちに理解していただき、そして、どうか適切な助言を提供していただき、楽しんでほしいと思います。



恵明キッズ サクラ ビレッジ

作品展

芸術の秋、今年も作品展に向けての製作がはじまりました。絵の具や紙粘土など、いろいろな道具や素材に触れながら行う製作をみんな楽しみにしています。今年のテーマは



「It's a small world」です。いろいろな国があり、子どもたちの想像する楽しい世界を広げていきたいと思っています。

私が担当している〇・一歳児は手型で、おてのちようちよを作っています。It's a small worldのジャングルの中にあるような鮮やかなちようちよです。子どもたちが好きな色の絵の具を選び、小さな手に塗っていきくと、不思議そうにじーと見つめたり、くすぐったそうに手を握ったりしています。絵の具の感触を楽しみ、かわいい手型ができると嬉しそうに見ていました。絵の具や粘土などいろいろな材料を使い、楽しい体験ができる場を考え、一緒に楽しみながら作っていききたいと思っています。二歳児は雪の中で遊んでいる雪だるまたち。三歳児はジャングルの中をときどきまわっている動物たち。四



歳児は乗り物をテーマにしたかっこいい車や飛ぶ乗り物の世界。五歳児はひとりひとり個性あふれるまさにスモールワールドを作っています。

各クラスの世界観を大切にしながら子どもたちの表現したい気持ちを満足のいくまでやりきれぬようサポートをし、表現することや製作をする楽しさや、やりきることの達成感・自信へと繋げていきたいと思っています。

室伏 葉月(保育士)

運動発表会を終えて

9月にKKVハッピースポーツウィークなかよし運

動発表会を行いました。練習に生懸命取り組む子どもたち。お遊戯の曲が決まると、楽しそうに踊る姿に感動しました。リレー等のお友だちと競う競技では、子どもたちにとって様々な心の格闘や思いが大事な経験になりました。お友だちを力一杯応援する。応援される命やり遂げる。勝つと嬉しい。負けると悔しい。などたくさんの経験をしました。負けに泣いているお友だちもいました。「次は負けな切替え頑張る姿も見られました。

いよいよ発表会当日。自信で満ち溢れている子、少

しそわそわし緊張している子、お父さんお母さんが観に来る嬉しさでうきうきしている子、色々な思いの中スタートしました。発表会が始まると表情がきりつと引き締まり、練習の成果を発揮する子どもたち。



富田 眞代
(保育士)

声で「おはようございます。

朝の玄関

新年度が始まり、あっという間に半年が経ちました。私は朝、玄関で子どもたちの受け入れを担当しています。四月の入園進級式を迎え、当初は泣いて来る子や笑顔で玄関へ入ってきたお母さんや、離れる時に悲しくなってしまう子、不安そうな表情の子ともたくさんありました。気持ちを切り替えてお部屋へ行くまでには、時間がかかっていたこともありますが、今では大きな声で「おはようございます。

毎日生活の中でその日の行事や活動が不安だつたり心配に思うこと、休み明けで気分が乗らない時もあると思いますが、登園した子どもたち二人一人の気持ちをしっかりと受け止め、一日の始まりが良いスタートをきれるよう、日々笑顔で迎えていきたいと思っています。

鈴木 智子(保育士)



「としつかり挨拶ができて、靴を脱ぐと自分でスムーズに上履きを履いたりすることができるようになりました。カバンを背負い、「行ってきます。」とみんな笑顔で楽しそうにお部屋へ向って行きます。小さいクラスのつくし組のお友だちも以前はお母さんからなかなか離れられないこともありましたが、今では両手をいっぱい広げとびきりの笑顔で抱きついてきてくれるようになりました。

恵明キッズ ローズ ビレッジ

就学に向けて

ばら組さんになり半年が経ちました。まだまだ幼くかわいらしい二十二人ですが、少しずつお兄さんお姉さんになってきています。先日はランドセルについての話題で盛り上がり、最近では登校練習でうちから朝歩いてくる子が増えました。歩くことを楽しみに、早起きをし、朝ごはんをおいしく食べてくるそうです。

今ばら組さんが朝、取り組んでいることがあります。朝の読書タイムです。



す。集中力をつけられたらいいなと思います。始めました。初めは三分からスタートしました。自分の気になる本をワクワクした表情で探し、お部屋でイスに座り机に向かって読む。まだ字を読むのが苦手な子は写真や絵がたくさんある本を選び、真剣な表情でながめ、又お話の本を選んだ子は「文字」文字を丁寧に読み進めています。少しずつ時間を増やしていき、今では七分のびました。最近では「終わりだよ」と声をかけても本を読み続け、「や」と読み終わって」と何日間かかけて読み終えたことを喜ぶほど読書タイムが好きな子が出てきました。楽しみながら必要な力を身につけてもらいたいのです。

今年はコロナにより、たくさんのお楽しみが中止になってしまいました。年長児の行事が減り、保護者の皆様に成長した姿を見せられる場面が少なくなりましたが、日々の中



かわい赤ちゃんたちとともに

今年度、私は0歳児の赤ちゃんクラスを担当することになりました。

今年度はコロナウイルス感染拡大防止対策のため、慣れ保育が終了した頃から長くお休みするお友だちが何人もいました。入園当初は泣いて登園してきたお友だちもやがて園に慣れた矢先、お休みになってしまうので、次の登園時がとて



み明けにはニコニコ笑顔で登園してくれました。今年度は、運動会やお誕生会などの行事が制限されました。園生活も毎日安全に楽しく過ごすように過ごしていくか、小さい子のクラスなりに考え、様々なおもちゃを使用したり計画的に運動遊びを取り入れたりと工夫してきました。4月の初めにはほとんど歩けなかった0歳児さん今ではほとんどの子が歩けるようになりお外で元気に走りまわっています。言葉が出てきたり、簡単な単語の意味もわかるようになるなど、新しい発見もたくさんあります。

親子のふれあいで笑顔に

今年度の子育て支援センターの行事は人数を制限して行っています。また、おもちゃの消毒を徹底したり、感染症対策として例年とは違った配慮が必要となりましたが、人数が少なかった分、穏やかに親子の時間を楽しんでいただいています。

今年度新たに支援センターの担当になり、初めて親子の前に立つ私の緊張をほぐしてくれたのは、ふれ合いあそびで生まれた親子の笑

顔でした。歌や音楽に合わせて、お母さんからだをなでてもらったり、ぎゅつと抱きしめてもらったりすると、子どもたちから笑顔があふれ、とてもリラックスした雰囲気になりました。お母さんにぴったりとくつき、お家とは違う環境に慣れないお母さんがいました。けれど、何足運んでくれることで、少しずつ距離が縮まり、私たち保育者に「バイバイ」と手を振ってくれた時はとても嬉しく思いました。

また、今まで感染症を心配されて、あまり外へ出られなかった親子が支援センターに遊びに来るようになるようになりました。子育ての悩



みをお話したり、他の親子と一緒に遊ぶことによつて、少しでも不安や心配が和らげられ、そんな場所になつてもらえたらいいなと思います。

櫻井 由美(保育士)

未だに世界中で猛威を振っている新型コロナウイルス!

KKV グループ(恵明キッズビレッジグループ)では、保護者の方々にも協力をお願いし、3月頃から自粛、中止、アルコール消毒、マスク等々の対応をしながら、感染拡大防止策を念頭に毎日を過ごしてきました。みんなが楽しみにしていた例年の楽しい行事も次々と中止になりました。

そこで、特別にハッピーに過ごせる工夫ができないか、例年とはちょっと違うような、そして子ども大人も心に残る今年ならではのハッピーな企画をコロナ対策をしながら考えていくことになりました。

2020 KKV ハッピー 企画

6月

親子で藍染め
ハッピーTシャツ作り

7月

年長組おたのしみハッピーツアー
三島スカイウォーク、山中城址へ



9月

ハッピースポーツウィーク
各園で3歳以上児運動発表会



10月

コスモス祭り
のど自慢大会
コスモスの丘野外ステージ~

ハッピーハロウィン
仮装パーティー



11月

年長組和太鼓発表会
各園で~

年長組おたのしみツアー
with autumn breeze
秋のそよ風とともに 楽寿園へ



これから穏やかな年末年始を迎えることができますよう、引き続き感染症対策を行ってまいります。